

報告事項 1. 平成 29 年度第 1 回公共交通会議の議事録について

【開催日時】平成 29 年 6 月 13 日（火） 13:15～14:30

【開催場所】飛騨市役所 西庁舎 大会議室

【出席委員】全委員 25 名 出席 21 名（代理出席 4 名）、委任状 3 名

飛騨市公共交通会議設置要綱第 6 条の 5 項により委員の半数以上の出席により会議成立

【議事次第及び結果】

司会【飛騨市総務部総務課 岡田課長】

◎あいさつ【都竹会長】

この会議そのものは古いが、地域公共交通網形成計画を策定し、その計画を基にこの会議を進めていくとなつてからは 4 年目。そして計画ができてからは 27 年 3 月から 3 年目。これまでいろいろな議論を積み重ねていただきながら、飛騨市の公共交通網の体系が整えられてきている。この公共交通は大量輸送機関が少ない飛騨市にとっては非常に大切な取り組みになっており、大きな予算を投じて取り組みを行っているわけだが、この問題は身近な問題でもあり、またバスのように乗客の様子が見えてわかるものであるが故に、市民の関心も非常に高い。人が少ないという姿が見えると途端に空でバスが走っていると言われるのがこの世界。そういう意味では淡々と計画を実施していくのではなく、見直しをしっかりと行っていくことは大事だと思っている。もちろん計画を作ってやっているの、しょっちゅう変えるわけもいかならないと思うが。やはり乗ってなんぼということですので。不断の見直しをしっかりとやっていくと。ジャンジャン変えていくとまでは言わないが、それくらいの勢いで検討していくのが必要と思っている。そういった意味では、今回もいろいろな現状、アンケート等々といった報告もあるが、それぞれの皆さまの立場で、ご意見を頂戴しながら、よりよい公共交通が実現していく、またそういった形で今年度進めてまいりたいと思っておりますので、引き続きのご議論をよろしくお願い申し上げます。

◎委員紹介及び委員委嘱について

<資料 1 P 1 >

【飛騨市総務部総務課 岡田課長】

◎報告事項

1. 平成 28 年度第 3 回公共交通会議の議事要旨について <資料 2 P 2～11 >

【事務局より説明】

2. 福祉有償運送利用者適正確認結果報告について <資料 3 P 12 >

【事務局より説明】

3. 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果等について <資料 4 P 13～14 >

【事務局より説明】

4. 飛騨市市営バスの実績について（平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月）

【事務局より説明】

<資料 5 P 15～16 >

【委員からの意見】

（委員 1）この数字は台数平均でなくて単純に利用者の平均値か。実績のない便を減らしたとしても人数は変わらないと思ったので。30 日あって 30 人乗れば 1 日平均 1 人。それが 1 便減らしても乗る人数が変わらなかつたら、便を減らしたとしても数字は変わらない

と。台数あたりの割合が増えたとか、そういうものがあるのかなと思って。例えば一人あたりの単価というところが、便を減らす効果が日当たり平均ではなくて違うところに反映されていると思った。便を減らしたというのをネガティブにとらずに、そういう数字を分かるというのをやっていると思われる。

(事務局) 利用率の低い便を減らしたということで経費が落ちるような形にはなっていると思うのですが、そのあたりの前年度経費との比較ができていないため、そのあたりの比較を見て実績を出したい。

(委員1) 何を目標にされているのかだけの話にはなりません。よろしくお願いします。

(議長) 0.1人というのは1日1人乗る確率が10分の1ということ。そうとう少ない数字。このあたりが今後の論点になってくる。数字でこの平均人数を見ていくのか、先ほど委員の方が言われた市の負担額に効果が出てくると、どこで捉えるかというのは大きな論点になってくる。

◎協議事項

1. 平成28年度決算報告について <資料6 P17>

【事務局より説明】

【委員からの意見】

なし

拍手多数により承認

2. 平成29年度監査員の指名について <資料7 P18>

飛騨市公共交通会議設置要綱第5条第1項より会長が指名

岐阜県タクシー協会会長及び古川タクシー(株)代表取締役 野戸 修氏

飛騨市区長会等連絡協議会会長 中家 久和氏

拍手多数により承認

3. 平成29年度飛騨市公共交通会議予算案及び地域公共交通再編推進事業（再編計画推進事業）について <資料8 P19～21>

【事務局より説明】

【委員からの意見】

なし

拍手多数により承認

4. 平成30年度「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）生活交通確保維持改善計画」について <資料9 P22～32>

【事務局より説明】

【委員からの意見】

なし

拍手多数により承認

◎その他

1. アドバイザーからの意見について <資料10 P33～34>

2. アンケートなどを通して取りまとめた意見について <資料11 P35>

【事務局より説明】

【委員からの意見】

(議長) 加藤先生からかなり具体的な意見をいただいている。冒頭にも申し上げたが、いろいろな見直しが随時して行くことが必要という中で、ひとつの考え方も示していただいている。また検討事項の中で、古川の中の循環乗合タクシー、太江線を一番需要が大きい医療機関に特化した形で考えたかどうか。とか、神岡のターミナルをスカイドームまたは振興事務所においてはどうかということも、庁内では検討、議論していたところ。こういったことが今年度議論の軸になってくると思う。それぞれの立場でこれに限らず、ご意見があれば賜りたい。

(委員 1) 30 年度に向けた検討の中で、ターミナルに関しては全国道の駅でターミナルとして使われている例もあると思う。そういった事例や自治体で同じようなことをやっていないかといったことについても我々も調べることができる。調べた結果ないこともあるかもしれないが、ご要望があれば連絡ほしい。

(委員 2) 現状のバス路線の状況ですと濃飛バス神岡営業所が拠点となっており、当営業所の使い方ということもひとつあると思う。実際、他社も入ってきている。地域路線、都市間路線、すべてあそこで、接続ができる形でやっているため、それから旅行センター等も一応ある。新たな施設ということではなく、もし、そういったものも含ませるのであれば、濃飛バス神岡営業所がいいと思う。

(委員 3) いろいろな見直しを含めて乗車効率を上げていただいて、実績もでていてよかったと思う。シニアの世界の話をする、今の状況は、例えば免許の自主返納の話。昨今のお話では、頼りにしていた JA の売店閉鎖という問題も出ている。バスは走ってくれるが、自分のリズムに必ずしも合っていない。要するに乗りたいたときにすぐ来てくれるというタクシー的なものの方がありがたい。特に河合、宮川の場合にバスより電話するとすぐに来てくれるというものがほしい。ポニーカーシステムだと、前日予約という形。前日というのはその日になれば予定も変わるため当てにならない。タクシーのようなもので、ある程度補助をしてもらいながら、年寄りはそのなりの負担はできる。病院に間に合うようなシステムがほしいという声が多い。古川の循環の話では、今の改正案ですとボタン一つで来てくれる。ほとんどタクシーみたいなもの。そうするとタクシーの営業妨害にならないのか。という心配がある。そのへんはどうか。

(議長) ちょうどタクシー事業者もみえている。A タクシー事業者さんの意見はどうか。

(委員 4) それについては、区域運行ということで、運輸局へも伺いたいが、不可能ではない。区域をある程度限定してしまえば、タクシーへ対する影響も少ないのではないと思う。ふるかわ循環も何倍も乗っていただいた方がありがたい。運輸局から法律的なところを教えてください。

(委員 5)

制度的には加藤先生の言われる形で可能かと思う。我々のほうからしても、一番大事なのは事業者さんとの兼ね合い。飛騨市の事案ではないが、コミュニティバスのような循環交通が流行ってしまったことで、廃業を考える地域業者も実際ある。そういったすみ分けができれば、利用者にも使いやすく、タクシー事業者さんでも影響はないというところとうまく着地できればいいと思う。

(議長) B タクシー事業者さんいかがか。

(委員 6) いろいろな意見を聞かせて頂いたが、これが正解というのは今のところ思いつかない。それに沿って実際動いてみると、事業者としてかなりの数字の変動がある気がする。実際動いてみないと分からない。

(委員3) 現実には、古川病院さん、垣内病院さんでもタクシーが全部送迎。そういう状況なので、公共のものが電話一本でくるとなると、これはがちゃがちゃになるのでは。便利はよくなるか分からないが、業界にとっては、ちょっとほかっとけない気がする。神岡の町の中の場合はまだいいとしても、問題は河合・宮川。この状況が続くと住めないということが深刻。足の確保については、買物難民もそうだが。市でもいろいろ考えているとは思いますが。やはり住み続けるためにはなにか必要か。バスを走らせていけばいいというものではない。要はニーズ対応してくれのものはないか。俗に言えばタクシーてきなもの。ある程度の負担はさせるようにして。もうちょっと頑張ろうとなるというか、頑張ろうとさせるようにしないと。免許は返納したいけども今のままでは絶対離せない。現実はそのような意見がたくさん出ている。

(議長) 他にいかがか。

(委員7) 市から委託されてポニーカー事業をしているが、河合宮川限定で片道 200 円。交通弱者の制度。面白い例があり、例えば小無雁(河合町)に住んでいるお年寄りが河合町の診療所へ行くと片道 200 円往復 400 円。宮川の大無雁のお年寄りが宮川の診療所よりも河合の診療所の方が近いため、河合の診療所に行こうとすると、河合と宮川を跨ぐと 300 円という制度があり、往復 600 円かかる。川を挟んだ数十メートルのことでそういった差が出てくる。河合、宮川は町で別れているが飛騨市全体で一つという考えから、流域を跨いだとしても同額とすれば利用者も増えるのでは。検討いただきたい。

(議長) ご意見他にどうぞ。

(委員1) 乗車実績を見ても 1 日 1 人乗っているかどうかとだとすると、他の地域あった事例が、実際バスに乗って利用者に意見を聞くというというのは非常に有効なニーズを把握する手段になっている地域もある。アンケートは各家庭に配るといよりは実際使っている方の様子とか実際にご自身が乗ってどうかとかの方が、より身近な話。決まった人ならば、母数が増えないとなんともならない。乗りたい人間がいるのか。個人の狙い撃ちぐらいにしないと無理かなと思う。ぜひ、顔の見えないアンケートより、地域に密着した自治体としての方法もあるのではないかなと思う。

(委員3) ポニーカーの関係だが、必ず前日予約でないといけないのか。当日配車ができて、いけるという話にはならないのか。制度的に。

(委員5)

制度的にはそういったところに決まりはなく、ほとんど運用の問題。前日予約でないとダメというように運輸局で言っているわけではない。事業者側の準備の問題でいろいろな運用がある。場合によっては 1 時間前まで OK ですというところもある。その事例は普通のタクシー車両が迎えに来るが。

(議長) 今いろいろご意見いただいた。随時検討していきたいと思う。先ほどのふるかわ循環の話だが、市の負担額が半年で 270 万。片道 1,000 円。往復 2,000 円。これは千回分。千回以上使える分になっている。この辺をどう考えるかという議論。費用の負担が変わらず、利便が高まるのならそういう方向を考える議論はあると考える。よくでる話で富山の八尾の病院の話。家の前まで送迎バスがくる。古川町内でも病院が送迎バスを出せば問題は 7~8 割解決してしまうのではないかな。そこに地元スーパーの送迎バスがあれば 100% 解決するのではということも内部で話をしている。そういった実験をやってみるのは可能か。ということをいろいろ話している。免許の返納の話も大事な話。何に使っているのかを兼ねて引き続き検討していきたい。アンケートについて乗って聞いてみるのが一番という話もでたが、実際の去年の改正のとき、乗って聞いてみる、バス停に立って聞いてみるということをやった。逆に 1 人 2 人の利用者が特定できればその方に聞くのもあり。加藤先生のターミナルの話もあったが、濃飛の営業所があることを踏まえて、こうしたご提案も受

けている。そういった趣旨も踏まえて今後考えることが必要。一発で全部解決する問題ではない。細かいところからやっていかないといけない。もう少し大胆にどこまでこの計画の中でできるのかを30年度に向けてやっていきたいと思う。引き続き、いろいろご意見賜りたい。

(委員4) 先ほどポニーカーの話もあったが、河合・宮川乗合タクシーもある。当日予約可能。ぜひ利用していただきたい。ふるかわ循環の話だが、以前、加藤先生と話をしたときに、ある程度区域を限定すれば、タクシーの営業には影響はない。そういう時代に入っているのではないかと。という話があり、そうですね。という話をした。実施するときはタクシー会社がどのような営業をしているかを調べていただきたいが。実際、時間帯によってもタクシー会社の業務にも波がある。営業区域の中から中の営業は少ない。タクシー会社がやることによって目的が限定されない。そういう自由がきく。

(委員8) 免許の返納という話。今年に入って飛騨警察署への返納者は46名。去年は87名。返納される方はまったくいないわけではない。

(議長) 年齢的にはどのくらいか。

(委員8) 昨年も今年も80から84歳が一番多くしめている。

(議長) このあたりも大事なデータ。検討していく際にも参考にしたい。

4. 第2回飛騨市公共交通会議日程について

8月18日(金) PM

【事務局より説明】

(議長)

以上をもちまして、飛騨市公共交通会議を閉じさせて頂く。ありがとうございました。